

下野市立石橋中学校

1 学校課題 「主体的に問い続ける学習者の育成」

～論理的思考を基盤とした課題発見・課題解決の学習の推進～

本課題は、急速に変化していく現代社会を生き抜いていける「主体的に問い続ける学習者」を育成することを念頭に設定したものである。

本校では生徒が協働して課題解決をする「学び合い」の授業を実践している。しかし、すべての教室で生徒同士が対話しながら深く学ぶ授業になっていない、学び合いうまく関われない生徒が見られるという課題があった。

学びに向かう集団づくりで欠かせないポイントは、「何を言っても大丈夫」という安心感と仲間への信頼感と捉え、まず、生徒同士の人間関係づくりを見直す必要があると考えた。また、生徒が容易に解決できない課題、知的好奇心を揺さぶるような課題を仲間と協働して解決する過程を通して、主体的・対話的で深い学びは実現されることから、生徒が主体となる授業をコーディネートする力をつける研究も進めてきた。加えて、国や県の質問紙調査から、自己有用感が低い実態も分かったことから、学び合いの授業を通して「できた」「わかった」という体験を数多くさせることで自己有用感を高めていきたいと考えた。これらの課題を解決するために、教師も協働して以下の実践を行った。

2 研究計画

- ・生徒の学びの保証～魅力ある学習課題作り（教科部会を有効活用）
- ・専門家としての教師力（授業力）の向上
- ・通常学級における学びに困難を抱えた生徒への対応について（インクルーシブ教育の実践）

①教員の授業力向上に関すること

1人1公開授業の実施・教科部会（通年毎週1回）・校内研修や年4回のS&Uコラボ研修会・授業アンケート（年1回）・ローテーション道徳の実施・石中フォーラム（2月）

②生徒の学力向上に関すること

石中タイム（毎日）・学習プリントコーナーの新設・朝の数学の時間（毎週火・金）
学習委員会による活動（定期的）



3 研究内容

教員の授業力向上

①1人1公開授業

昨年度に引き続き異教科異年齢4人の班を構成し、1人1公開授業及び15分間程度の授業研究会を実施した。公開授業の実施にあたっては、学校課題にある「論理的思考を基盤とした課題発見・課題解決の学習の推進」を意識した課題を選び、開発して授業を行った。

②教科部会（週時程に位置づけ）

教科部会を週時程に位置付けることで異教科から学んだ多様な視点を縦、教科で専門的に話し合うことを横とし、縦横相互に連携・補完し合うよう実施することによって、教員の研修への意欲も高まり、より資質能力の向上が図られていくと考えた。

③校内研修や年4回のS&Uコラボ研修会

全国学力・学習状況調査やとちぎっ子学習状況調査（調査問題、生徒質問紙）の分析を全職員で行い、本校の実態・弱点を分析して授業改善をはじめとした学校教育全体の取組に生かすことを実施した。S&U コラボ事業では、宇都宮大学の先生方と連携して、年4回の研修会・授業研究会を実施した（「総合的な学習の時間についての研修」「特別の教科 道徳の研修と公開授業・授業研究会」「インクルーシブ教育の研修」「英語の研修と公開授業・授業研究会」）。専門的な視点からの指導助言を得ることで、新たな知識や最新の教育理論を学ぶことができた。



④授業アンケート

年1回授業アンケートを以下の流れで全教員実施した。①授業を生徒が評価する②結果を数値化し、自分の授業の強み弱みを知り授業改善に生かす。教師は生徒の学びを常に意識した授業作り、学習課題の作成に意識を集中する必要があることを共通理解した。

⑤ローテーション道德

学年毎に担任、学年主任、副担任によるローテーション道德を実施した。同じ教材で繰り返し授業を行うことで発問を再考したり、同僚の授業を参観したりすることを通して、道德の授業改善を図ることができた。

⑥石中教育フォーラム

年度末の校内研修として、全教員が個人レポートを作成し、1年間の日々の授業や公開授業、研修などで学んだことを共有し、個人として、また学校全体としての1年間の成果と課題を話し合う石中教育フォーラムを実施した。

生徒の学力向上

①石中タイムを活用しての自主学習

質問紙調査より家庭学習への取組に課題が見られたため、自主学習の習慣を身に付けられるよう毎朝20分間の学習時間を確保した。また月はじめの1週間を読書WEEKに設定し、読書の習慣化を図った。

②学習プリントコーナーの新設

受け身の学習から、自主的に学習を進めることができるための手立てとして、各学年の廊下に学習プリントコーナーを設置した。



③朝の数学の時間

数学に苦手意識をもつ生徒が多い実態を踏まえ、火・金の石中タイムの時間に希望者を対象にした「数学の時間」を設けた。数学科担当の教員が中心になり、学習をサポートした。

④生徒から生徒への啓発 (学習委員会の生徒)

昨年度発足した学習委員会による生徒による学力向上を呼びかける活動の実施。特に毎日のパワーアップノートの提出を促進させ、家庭学習の習慣化の活動を展開した。

4 本年度の成果と課題

① 成果

学校全体として、生徒が容易に解決できない課題、知的好奇心を揺さぶるような課題を各単元に一回は設定し、ペア学習やグループ学習を使い、深い学びを実践するための取り組みを行ってきた。その結果、「生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることが出来ていると思いますか」の項目では、

全国学力学習状況調査質問紙の項目	4/18	1/8	比較
自分には良いところがあると思いますか	75.2	74.9	-0.3
将来の夢や目標を持っていますか	72.9	80.1	+7.2
生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることが出来ていると思いますか	72.9	84.2	+11.3

11.3ポイントアップの84.2%という結果につながった。全教職員が公開授業を実施し、授業研究会を各グループで行い、自分や同僚の授業力向上のための実践を行うことができた。またS&Uコラボ研修時の公開授業においては個人に任せることなく、学年や英語部会・道徳部会・学習指導部会で協力し指導案検討や模擬授業などを行い、学校全体として取り組むことができた。

② 課題

学校課題にある「論理的思考」を生徒が身につけることができていないと感じる。論理的思考とは、根拠を明らかにし、相手を納得させることができるように筋道を立てて説明できる力と考える。この力を身につけさせるための授業実践が課題である。「なぜ?」「どうして?」という問いを自ら持ち、そのことを好奇心をもって考えようとする意欲、生徒同士での学び合いを通して課題を解決していける力をもった生徒を育てていかなければならない。そのためのさらなる授業力の向上が不可欠である。急速に変化していく現代社会を生き抜いていける「主体的に問い続ける学習者」を育成するために邁進していきたい。